

〈3/11 監視チームにおける議論のまとめ〉  
2. 安全対策(津波)に係る個別の検討事項について  
⑤ 影響評価などを踏まえた津波防護対策の有効性について  
○ハード対策 b) HAW 内壁の補強について

## HAW 施設の外壁の補強について

令和2年4月1日

再処理廃止措置技術開発センター

### 1. 概要(添付1)

高放射性廃液貯蔵場(HAW施設)の建家1階にはシャッターと扉による開口部(以下、「開口部」という。)があり、開口部の外側には浸水防止扉が設置されている。

開口部周辺の外壁は、浸水防止扉に加わる津波波力を負担することから応力が部材耐力を超えるため補強対策を行う。補強にあたっては、外壁外側はスライド式浸水防止扉と干渉するため、内側にコンクリートの増し打ち補強を行う。

補強設計を進めており、令和2年7月に補正申請を予定している。

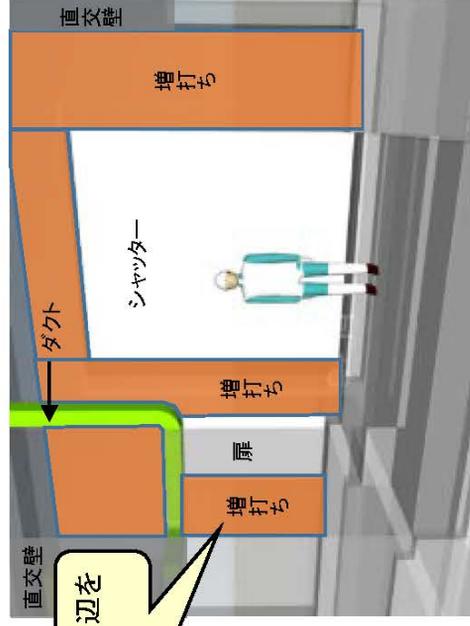
### 2. 開口部周辺の補強の考え方(添付2)

津波の波力による応力は下部で大きくなるため、これまでの概略検討では下部の補強が必要となっている。

現在、実施中の補強設計では、既存躯体との一体性を確保するため、開口部周辺の外壁全面を補強範囲とし、既存躯体と増打ち壁はあと施工アンカーを設置する計画である。

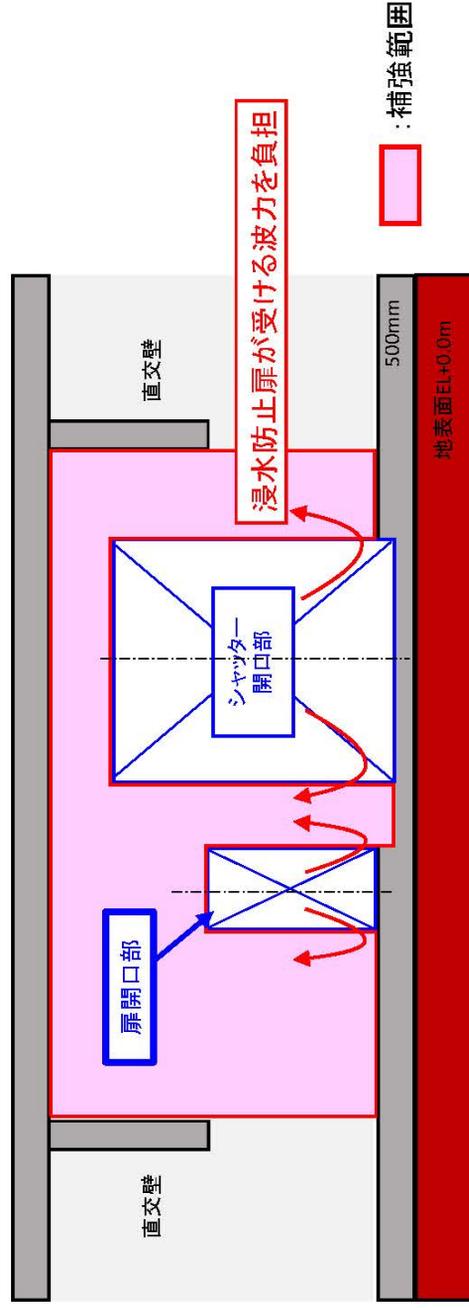
以上

- 開口部周辺の外壁は、浸水防止扉が受ける波力を負担することから応力が大きくなり、部材耐力を超えるため、補強する必要がある。
- 外壁外側はスライド式浸水防止扉と干渉するため、内側にコンクリートの増打ち補強を行う。



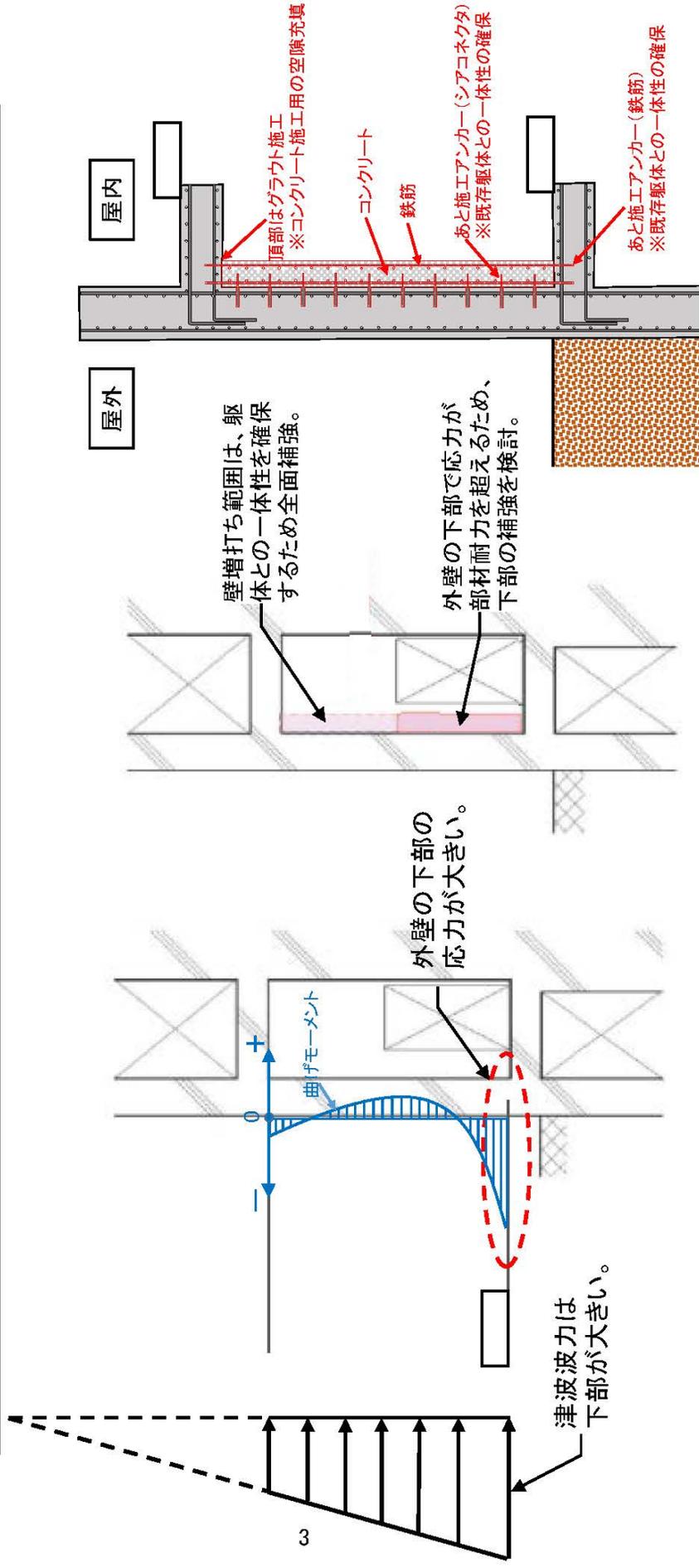
建家外側の状況(スライド式浸水防止扉)

建家内開口部周辺の増打ちのイメージ図



建家内開口部周辺の補強のイメージ図(建家内断面図)

- ・津波波力は下部の方が大きく、外壁の下部の応力が大きくなるため、補強が必要となる。
- ・開口部周辺の外壁下部の補強が必要となるが、既存躯体との一体性を確保するため、開口部周辺の外壁全面を補強範囲として設計を進める。
- ・あと施工アンカーにより、既存躯体と増打ち壁の一体性を高める。



津波の波力 津波の波力により生じる応力  
(曲げモーメント分布)

補強範囲

施工イメージ

※壁増打ち厚さは、津波の波力、クライテリアに応じて仕様を確定する。